

2024年 西糀谷しろはと保育園 事業報告

1. 概要

①運営報告

- 東京都のゼロエミッション化に向けた省エネ設備導入（空調設備，LEDなど）を考え、CO₂の削減に努めてきました。東京都の補助金を活用し空調設備を新しく購入したことで電気料金の削減に努めることができました。
また、東京都の木育事業計画を継続し木や森林など自然への理解を深め、身近な存在として感じとれるように親子での保育活動を実施しました。
- 保育所における子どもの安全確保について安全計画書の見直しや避難訓練計画の内容の充実災害時誰でも初動対応ができるようにファーストミッションの作成など危機管理グループを設け計画的に実施してきました。
また、不審者訓練や起震車体験、煙体験など新たな訓練を実施することができました。
さらに、園の情報機器、IP無線機やセコムの機器を日常的に利用し、災害の際の職員への周知や情報の共有化など安全対策への環境を整えました。
乳児のSIDS予防のため、体動センサーを整えました。
- 令和6年度に第三者評価を受審しました。また、東京都の働きやすい福祉の職場宣言の更新を行い、東京都福祉人材バンクシステム「ふくむすび」で公表が完了し「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言事業所公表通知」及び「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言マークのステッカー」が送付されました。今後の人材の確保に繋げるとともに職員の質の向上など保育の改善点の確認や課題の見直しをしていきました。

①定員 129名

②事業日数 296日（年末保育の12月29日、30日を含む）

③開園時間 月曜日～土曜日 7時15分から20時15分
年末保育期間 7時30分から18時30分

④保育時間 早朝保育 7時15分から 8時30分
通常保育 8時30分から18時15分
延長保育 18時15分から20時15分

⑤職員数 園長 1名、主任保育士 1名、副主任1名 保育士 19名
非常勤保育士 8名、看護師 1名、嘱託医（内科医1名 歯科医1名）

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し人として「生きる力」を育む
- 働く保護者と信頼関係を築き、安心して預けられる保育の場を提供する
- 地域における子育て支援のため、保育に関する相談や助言の役割を果たす

③保育目標

1. 心身ともに、健康な子
2. 友だちと助け合える子
3. 失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジできる子
4. 優しさのある子

④クラス編成及び職員配置

0歳児	おたまじゃくし組	12名	保育士4名	看護師1名
1歳児	めだか組	18名	保育士4名	
2歳児	かに組	24名	保育士4名	
3歳児	かえる組	25名	保育士3名	
4歳児	とびうお組	25名	保育士2名	
5歳児	くじら組	25名	保育士2名	(1名非常勤)

主任保育士1名

障害児担当加配保育士 2名 (有資格者・パート)

フリー保育保育士1名

早朝・延長保育担当保育補助9名

園児 計129名 保育士 29名

⑤保育内容

- 支援の必要な子どもが増加し、認定児への適切な対応について専門機関や臨床心理士などと連携を取り個々に必要な支援対策について学び対応していきました。月に2回支援施設の職員が来園し、集団保育との違いや個別支援の情報など支援の必要な子どもについての情報

を共有しながら保育を進めることができました。

- 日々の運動遊びの見直しと週1回の体育遊び、安田式運動遊びなどを取り入れ、その後の体力改善に取り組むとともに自然への興味関心を広げながら、散歩の距離を伸ばしていきました。また、子どもたちの運動能力体力向上を狙い八角ジムを購入しました。
- すべての乳幼児の「伸びる・育つ（すくすく）」と「好奇心・探求心（わくわく）」を応援する幼保共通のプログラムで、乳幼児の豊かな心の育ちをサポートし主体的・共同的な探索活動の実践を促進ために、東京都の補助金150万を申請しました。給食委託業者と連携を図り、子どもの食への興味や関心を深めるように食育活動として『見る・触れる』等の実体験を中心とした野菜の栽培やクッキングなどへの参加や食育指導を実施しました。さらに本やパネルなどの媒体を使用しながら食の大切さを学んでいきました。
- 園庭遊びや日常保育の中での異年齢交流の機会を自然に設けるとともに、年間計画を立て、意図的にかかわりを持つように活動を計画して行きました。
また、世代間交流を地域との連携の中で行い人との関わる力や思いやりを育む保育を進め社会性を広げるよう行事への取り組みを工夫していきました。
- 乳児は子どもの姿を捉えた環境構成や援助の仕方など、小グループでの保育を行いました。また、保育指針を基に一人一人の育ちを考慮した養護と教育が一体となった保育を確立しています。
- 保育指針や保育業務マニュアルを基に子どもの人権尊重と最善の利益について職員で確認しながら保育内容を見直し、職員の不適切な保育がないように職員同士で日々の保育を振り返り、子どもが健康で安全で情緒の安定した生活が出来る環境づくりを進めました。

⑥家庭との連携

- 保護者が安心できる保育園をめざし、メールやホームページ、ネット動画を活用し、きめ細やかに保育内容や保育環境の情報の伝達を心がけていきました。また子どもの小さなけがや体調不良など写真やタブレット端末を活用して保護者の方にきめ細かく子どもの様子を知らせることができました。
- 保育理念、保育目標、安全計画を年度当初に伝えるとともに各クラスのテーマを決めて少人数での懇談会を実施してきました。保護者同士の懇談は各家庭の情報を共有し育児の悩みを相談しあうなど少ない時間で効率的な懇談方法で実施することができて好評でした。
また、今年度は幼児クラスは保育参加を積極的に呼びかけ実施したことで園での子どもの様子を理解していただく良い機会でした。
個人面談は乳児クラスは年1回にしたが後半にも実施が必要でした。
- 保護者からの要望や意見は、行事や保護者会の後に必ずアンケートを取り集約し、保護者にフィードバックしました。今年度は、第三者評価の利用者アンケートを実施し毎年の年度末の利用者アンケートは実施しませんでした。今年度から利用者や職員のアンケートがWEBで行うことになりました。初めてのWEB利用でしたが、回答率70.6%でした。

- 日常の活動や連絡はメールで配信し、保護者からの休みの連絡はスマホのアプリから 9 時半までを基本とし、連絡がない場合は確認の電話を入れ、子どもの所在や健康状態を把握するようにしました。月のおたよりや献立表など保護者への連絡は、伝わりやすいように内容の工夫や配信時期を注意しています。配信内容や、災害に対するアンケートなどメール配信サービスを活用し、保護者の意見を反映するようにしました。
- 保護者の危機管理意識を高める為に、おたよりやオンラインを活用し感染症対策、防災や減災について随時園の方針を伝え、協力の依頼をしてきました。
また、大田区の危機管理課に依頼し、保護者向けに防災についての研修を実施しました。
さらに、他の園と起震車体験を実施、園独自で煙体験を実施するなど幅広く経験をすることができました。
登降園の確認と欠席理由や日々の人数の確認など子どもの人数確認を時間を決めて実施して子どもの所在を把握していきました。
- 安全計画については、保護者への説明責任が義務化されました。安全保育についての定期的な園の情報を配信するように心がけ保護者への信頼確保に繋がるように努めました。今後も危機管理に対する意識を高めていきたいと思えます。
- 子どもや保護者への SDGS の理解を深めていくように、木育事業者の協力のもと日本の間伐材の利用についての説明や箸やスプーン製作など親子で楽しみながら学ぶ機会を設けました。

⑦ 地域の実態に対応した事業

- ホームページを活用し「よちよちタイム」の子育て支援について年間計画を立て、毎月 1 回ふれあい遊びや手遊びなど子育ての情報を伝えて行きました。ユーチューブを利用して手遊びやパネルシアター、などを掲載し子育て支援に繋げていきました。
さらに地域のお年寄りとの交流や、ベビーマッサージ、バランスボール（3 回）、チェロやバイオリンのコンサート（1 回）など、在園の子どもたちと一緒に行事への参加が気軽にできるように計画し楽しむことができました。
- 出張所や児童館、地域保育園や町会との地域会議や交流が年間 2 回定期的に行われるようになりました。地域の情報を収集し、災害時の援助や子育て支援を計画するとともに、園の情報を発信し保育園の情報を理解していただきました。
- 毎年公立保育園と他の園との三園交流を年間計画（年間 6 回）を立てて実施しています。子どもたちにとっては、小学入学にあたって同じ学校に行く友だちと出会い、心強く感じるとともに、ほかの園とかかわることで社会性が広がり、同じクラスの友だちとの絆を強めるな

ど活動内容や場所の変化を感じながらあそびを経験することができました。

また、幼保小で連携し卒園後も継続して子ども達との関わりを持ち支援が行なえるように情報を共有していきました。

- 園の見学と、バランスボールなどの地域活動を同じ日に実施してきました。保育園の見学については、事前にホームページや掲示板で知らせていますが、今年度は入園申し込み締め切り間際に見学希望者が集中し、92組の見学者となりました。

園の見学と新入園児の入園希望については、かなり影響しており希望の理由については、「災害対策」と「園舎が木を利用し暖かく感じる」との意見が多く聞かれました。

地域社会資源との連携

- 地域小中学校との交流（職場体験（3校）学校訪問（4回）、運動会の実施、）をおこないました。さらに、散歩先での災害時の避難場所として地域の中学校へ協力を要請しました。また、定期的な地域会議において災害についての取り組みについての情報を共有し糶谷地区水害時緊急避難場所開設連絡票などを設け開設状況が各施設に連絡が来るようになりました。

- 地域行政、民生委員、保健師などと連携を強化し糶谷地区子ども地域会議を年間2回実施し各施設の情報交換や災害について話し合いました。また、地域保健センターにおいては歯磨きの指導や感染症防止についての対応などについて指導を仰ぐことができました。

- 保護者や地域、職員の意識向上を図るために大田区の危機管理課や防災専門家に依頼し、防災教育を実施しました。また、洪水の際の対応について、各園独自で閉園や帰園をさせることがないように、役所が主体となり避難について早めに支持をすとの報告がありましたさらに警察や大田区役所へ協力を依頼し、不審者訓練や就学を見据えての交通安全教室を実施しました。

⑧小学校との連携

- こどもたちの入学への不安を軽減するために、今年度初めて小学校のプール活動から授業参観をしてほしいとの要望が学校よりあり見学に行きました。また小学校の体験も、給食当番やランドセルを背負って歩く、授業風景の観察など具体的に繰り返し経験をすることができました。（2校の小学校との交流実施）

また、保幼小連絡協議会での意見交換や情報交換、就学支援シート、保育要録を通じて園児の引継ぎを丁寧に行い保育園から小学校へのスムーズな移行ができるようにしました。

さらに、各学校から電話での確認があり子どもの引継ぎが丁寧にできました。

⑨人材育成

- 子どもの発達の理解を深めるために年齢別研修やキャリアアップ研修に参加しました。具体

的に年齢別研修に参加したことで日常の保育を振り返る良い機会となりました。また、公立保育園の公開保育や、地域の保育園の見学に行きました。

気になる子どもへの対応に日々悩んでいます。日常保育の対応や保護者対応など臨床心理士の指導を仰ぎながら助言をもらい、子どもを見る目を高め対応の仕方を学ぶことができました。

- 保育所保育指針を元に子どもの発達過程を確認し、定期的な自己評価をしながら保育の見直しを行いました。また「子どもを尊重する保育」を基本に人権擁護のためのセルフチェックを行いながら、職員の専門性の向上を目指していきました。
- 職員全体が保育に対する意識を共有し進めていくことが出来るように定期的なリーダー会を実施し保育内容の統一を図るとともに、職員研修計画のもとに各リーダーが新人職員の指導育成を行う。危機管理研修、安田式遊具の運動遊び、支援の必要な子どもへのかかわり方、遊びを通した子どもの発達などの研修を計画的に実施していきました。
- 看護師の業務の再確認と保健業務の手引きを見直し看護師の役割を見直しました。年間計画を基に、感染症やAEDの使用方法について、またエピペンの使用についてなど定期的に訓練していきました。さらに救命技能認定書の取得後技術の継続を図るために、看護師の指導の下、実技研修を実施しました。
- 業務委託のミールケアに依頼し、乳児を中心とした保護者への食事指導や離乳食指導を計画的に進めるとともに、保護者指導の方法、子どもの食事指導を中心として栄養士とともに研修と実践を行いました。また、アレルギー児の受け入れや宗教食など食事への対応が幅広くなりました。保護者や保育士、栄養士との連携を図りながら誤食防止に努めました。

⑩苦情処理

- 令和6年6月にオンブズマン制度運営状況報告書が出されました。申立人が捉えていたほど不適切な対応は見いだせなかった。との回答が寄せられました。今後も保護者の必要とする情報は、丁寧に繰り返し伝える工夫を心掛けるとともに、記録に残す。クラスでのトラブルや事故については、クラスのみではなく園長や主任がさらに対応し、クラスと保護者の信頼関係を深めるように努めました。

⑪リスクマネジメント

- 東京都は災害時、利用者安全確保などのため非常電源などを整備する社会福祉施設などに対して補助金を交付することとなりました。そこで、東京都に申請し蓄電器への補助を申請をし、¥21,1000の補助金が決定しました。蓄電器の使い方やソーラパネルでの充電などについて職員で確認しました。

- 避難訓練の一環として、消防署の指導の下、消火訓練や通報訓練を行いました。ついでに消防署の立ち入り検査も実施しましたが特に指摘はありませんでした。
また、毎月の避難訓練については、各クラス反省をもとに再度クラスごとの訓練を実施してクラスの問題点を解決していきました。
- 蒲田警察に依頼し、職員向けに不審者対策について指導を仰ぎました。さすまたの使い方、学校 110 番の確認、不審者への対応の仕方、知らない人はすべて不審者と思うように、との助言をもらいインターホンでの対応を徹底するように注意を受け園でも名前を伝えていただき対応するように徹底してきました。
- “不適切な保育”について、園長会后公立と私立の園長と一緒に研修が実施されました。他園での案件で議会まで報告するほどの案件があり、R6年度は見失いや置き去りなど各園からの報告が多数あったとの課長からの報告を受け、わが園でも人数の確認や子どもへの対応など職員とチェックリストを活用し職員会の中で注意喚起しました。
- 防災計画に基づいた避難訓練を実施し、万一の大震災、非常時の事態に備えてグループ研修を行いファーストミッションボックスについて検討しました。その書類を見ると誰でも初動操作を実施できるように、本部、安全点検、初期消火班、保育班などに分かれて活動できるようにマニュアルを各クラスに設置しました。
- 0歳児のSIDS予防のために、体動センサーICUCOを購入しました。自動的に子どもの体位、呼吸、体温などを感知するようになって記録に残るようになっていますが、それだけに頼ることなく、目視や触診なども行いながら気を付けています。
- 災害時は電話が繋がらないことを想定し、新たに園の携帯電話の購入と避難訓練時のIP無線機の活用など複数の連絡手段を設けるようにしました。
- 日常の小さな事故の記録を継承し、職員の安全保育への意識を向上させ事故や怪我の減少に努め保育のあり方をチェックできる仕組みを設け各クラスヒヤリハットの冊子をさくせいしました。噛みつきや、擦り傷など小さな事故を記入することが多かったがヒヤリハットを書くことに慣れてきました。それを見直しながら事故防止につなげています。
- 食の安全の視点から給食委託業者と、アレルギー事故の防止や異物混入、給食提供方法などについて確認、見直を毎月実施しました。衛生面や味、食材の大きさや種類などについて事業者と連携を取りながら給食提供を行ない、宗教食についても保護者や保育士、栄養士との連携を取りながら食事の提供を進めていきました。卵、小麦粉、柑橘類、などの除去を行っていますが、大学病院を受診しながら半日入院での負荷試験を実施し、保護者と確認しています。

- 熱中症対策として、早めの遮光ネットやミスト発生装置の設置をしました。外に出る時間は限られますが、子どもたちは気持ちよく過ごすことができ、保護者にも好評でした。

⑫その他

- 0歳児クラスの床工事を行いました。現在のコルクの上に弾力材を敷きその上に塩ビシートを張り、0歳児が床で転んでも衝撃が少ない材料にしました。

- 東京都の補助金を利用して、園全体の空調工事をしました。
工場、事業所などの産業・事業所部門における省エネ性能の高い設備機器への更新や複数事業者の連携、より先進的な省エネ技術における機器、設備の導入に係る費用の一部を支援することが目的で補助金をもらいました。助成対象経費は、金 13.633100. 助成確定額は金 9.088.000 となりました。さらに、年間 23 万ほどの電気料金の削減となりました。
毎年、電気、ガス、水道料金を東京都への報告を行っています。

- 空調工事にあたり、調理室の天井へのアスベストが見つかりましたが、保育サービス課の予算で撤去工事をしました。

- 子どもの行動が激しく、テラスを飛び越えたり危険な行動が見られたので、非常用滑り台（のぼり）入り口に柵を設置しました。非常用となっているので、消防署へ連絡し設置確認、現地検査をしていただき了承を得て設置することができました。その際、テラスの柵等の設置確認をすると、テラスは避難用として柵を設けることはできないとの指導がありました。



西糀谷しろはと保育園

2024 年度年間行事予定

月	行事	保護者参加行事	地域活動
4月	進級式 1日(月) 入園日 1日(月) 造形遊び 18日(木)	くじら組保護者会 13日(土) 防災講和 12日(金)	
5月	こどもの日の集い 10日(金) 造形遊び 16日(木) パネルシアター 31日(金)	めだか・かえる組保護者会 25日 くじら組面談 13日～6/28 くじら組保育参加 5月～1月	
6月	エールの運動遊び 4日(火) 造形遊び 20日(木)	おたまじゃくし組保護者会 15日(土) おたまじゃくし組面談 24日～7/5 かえる組面談 17日～7/5 とびうお組保育参加 6月～1月	
7月	夏祭り 5日(金) トムテ 8日(月) 造形遊び 18日(木) サマーコンサート 19日(金) パネルシアター 26日(金)	夏祭り 5日(金) くじら組木育 (はし、スプーン作り) 20日(土) かに組面談 1日～19日 とびうお組面談 1日～19日 とびうお組保育参加 7月～1月	夏祭り 5日 サマーコンサート 19日
8月			
9月	防災訓練 3日(火) 造形遊び 5日(木) パネルシアター 13日(金)	引取り訓練 3日(火) 運動会 28日(土)	ベビーマッサージ 13日
10月	造形遊び 3日(木) エールの運動遊び 22日(火) 園外保育 24日(木)	めだか組保育参観 2日～13日	バランスボール 19日
11月	いもほり 8日(金) 造形遊び 7日(木) トムテ 18日(月) 交通安全教室 14日(木) 焼き芋 19日(火) パネルシアター 22日(金) くじら組起震車体験 29日(金)	くじら組食育(鮭の解体) 15日(金) かえる組お楽しみ会・保護者会 21日(木) おたまじゃくし組保育参観 18日～29日 かに組保育参観 5日～29日	パネルシアター 22日 焼き芋 19日 ベビーマッサージ 9日
12月	生活発表会 7日(土) 造形遊び 12日(木) 餅つき会 24日(火) お楽しみ会 25日(水)	とびうお・くじら組生活発表会 7日(土) くじら組保護者会 7日(土) くじら組面談 9日～20日	
1月	新年子ども会 9日(木) 造形遊び 16日(木) チェロコンサート 17日(金) パネルシアター 23日(金)	かえる組面談 20日～2/7	パネルシアター 23日 新年子ども会 9日 ベビーマッサージ 15日
2月	節分 3日(月) トムテ 7日(金) 造形遊び 13日(木) エール運動遊び 18日(火)	新入児健康診断 26日(水) とびうお組面談 10日～28日	節分 3日
3月	ひなまつり会 3日(月) くじら組園外保育 4日(火) パネルシアター 6日(木) おわかれ交流会 7日(金) 卒園式 15日(土) 造形遊び 21日(木) ダブルダッチ 28日(金)	新入児健康診断 5日(水) 卒園式 15日(土)	パネルシアター 6日

※ 毎月・・・計測 避難訓練 0歳児健診の実施 ※その他 歯みがき指導(年間2回)

※ ボランティアの活用 ※木育活動

※ 造形遊び(月1回)・体育遊び(週1回)・英語で遊ぼう(週1回)実施

※地域活動を園児と一緒に参加していきます。

※トムテ・・・木のおもちゃで遊ぶ